

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

古きを尊び、新たな感性で磨き上げた名作

ヨハネス・ブラームス / アルノルト・シェーンベルク

Johannes Brahms (1833–1897) / Arnold Schönberg (1874–1951)

19世紀に古典的なたたずまいの作品を残したブラームス。かたや20世紀に革新的な音楽を書いたシェーンベルク。対照的な作風の2人ですが、シェーンベルクはブラームスの音楽に惜しめない賞賛の言葉を贈っています。ブラームスの論理的で緻密な音楽の組み立て方を高く評価していたのです。彼はブラームスの《ピアノ四重奏曲第1番》を管弦楽に編曲した理由を、「この曲を愛しているから」と語っています。シェーンベルクの「ブラームス愛」から生まれたこの編曲作品、2人の大作曲家の個性と技量が合わさった名作になりました。

A 2026 MAY
[第2064回]

©IKE



亡命先のアメリカでブラームス作品を編曲したシェーンベルク。
その心には故郷ヨーロッパを懐かしむ想いもあったかもしれない